

# 希望

チューリツヒ日本人学校便り

平成 27 年 8 月 17 日 発行  
第 16 号  
発行人 校長 鈴木史良

## 「何のために学ぶのか」を知る

—— 2 学期のスタートにあたり ～始業式の言葉より——

ここ数年日本の若者は海外にはあまり関心がないという傾向があると報じられていた。しかし、最近のニュースを見ると、国内政治や経済、海外の問題にも関心をもつ若者が徐々に増えてきているような気がする。若者が世の中の動きに関心をもつことはとてもよいことだ。

日本は食料にしろ、エネルギーにしろ、自分の国ですべてまかなうことはできないため多くの国との貿易をしている。また、地球規模ですすむ温暖化という問題についても、日本だけが二酸化炭素を減らしたとしても解決にならない。多くの国との協力が重要だ。世界にはこの他にも難しい問題が山ほどある。

このようなことは大人に任せればいい、子どもの私たちは関係ない、とみなさんは思ったことだろう。それが国語や算数の勉強とどのような関係があるのだろうか。

私は、おおいにある！ と思っている。「何のために学ぶのか」と問われると、よい成績をとり、よい学校に進学したいからと答える子どもは大勢いる。将来の自分の幸せにつながると考えているからだ。

でも、ほんとうにそうだろうか？ これからの世の中、自分だけ幸せになるのは不可能なような気がする。先に述べたように、これからの世界を住みやすくするためには、自分の周りや社会、大きく言えば地球全体に関わる諸問題をみんなで協力し合って解決していかなければ、個人の幸せも日本の幸せも手に入らない。

そこで「何のために学ぶのか」を見つけるために、「今、私たちはどんな世界を生活しているのか」を知ることが必要だ。世界にはさまざまなことが起きている。それについて一つでも関心をもてばいい。今世界がどう動いているのかを知ることによって、これからの自分の学びに何が必要であるかを教えてくれる。自分が関心をもったことをより深く知ろうとすればするほど、多くの疑問や難しい問題にぶつかる。そんなとき役立つのが学校で学んだ力だ。1年生が学ぶ足し算、引き算も本読みも漢字の勉強も、実は将来、いろいろな国の人々と協力し合い、難しい問題を解決して地球を今よりもっと住みやすい場所にするにつながっている。30年後の地球はみなさんも含めた地球上の子どもたちが、どれだけ一生懸命に勉強するかにかかっていると思うのだ。



低学年のお弁当の時間



中学年調理実習、さて何ができるかな？

詩を楽しむ



海

川崎 洋

ざぶん しゅう  
 ぴたぴた ぱちやり  
 海は  
 いつもいつもゆれている  
 海は  
 いつもいつも走っている  
 海の水を  
 バケツにくんで  
 砂浜においたら  
 しーんと静かになった  
 海の水は  
 眠ってしまったのだ  
 バケツをそーっと傾けて  
 海へ帰してあげた

砂浜に寄せては返す波の様子がひらがな書きのオノマトペ（擬声語・擬態語）で表現されている。オノマトペの響きから察するに穏やかな海の情景だ。普通、擬音語はカタカナ書きされるが、川崎洋はあえてひらがな書きにしたのだろう。何とも言えぬ不思議感につつまれたまま、ファンタジーの世界に引き込まれていく。海水をバケツに汲んで砂浜に置くとうなるのか？ 中には海水が入っているだけの話で、だれも問い返すことのない問いだが、それを問い返したことがこの詩の核心となっている。詩人の言葉のマジックにかかると、海水は単なる海水ではなく、なにやら意思をもった軟体動物かのように振る舞い、自ら揺れ動くのをやめたりする。それは海水が眠りに入ったからだど、さも当たり前のように説明しているところが心憎いところだ。最後は眠ってしまった海水を、起こさぬように気を遣いながら、そーっと傾けて海へ帰してあげた、とたたみ掛けている。ここまできると、詩人の比喩のおもしろさに、もう参りましたと降参するしかない。

8月の主要予定

- 17日(月) 2学期始業式 身体測定
- 18日(火) クラブ
- 20日(木) 中学部実力テスト JS タイム
- 21日(金) " クラブ
- 25日(火) クラブ
- 27日(木) JS タイム
- 28日(金) 月例情報交換会 クラブ
- 30日(日) 希望者学カテスト

